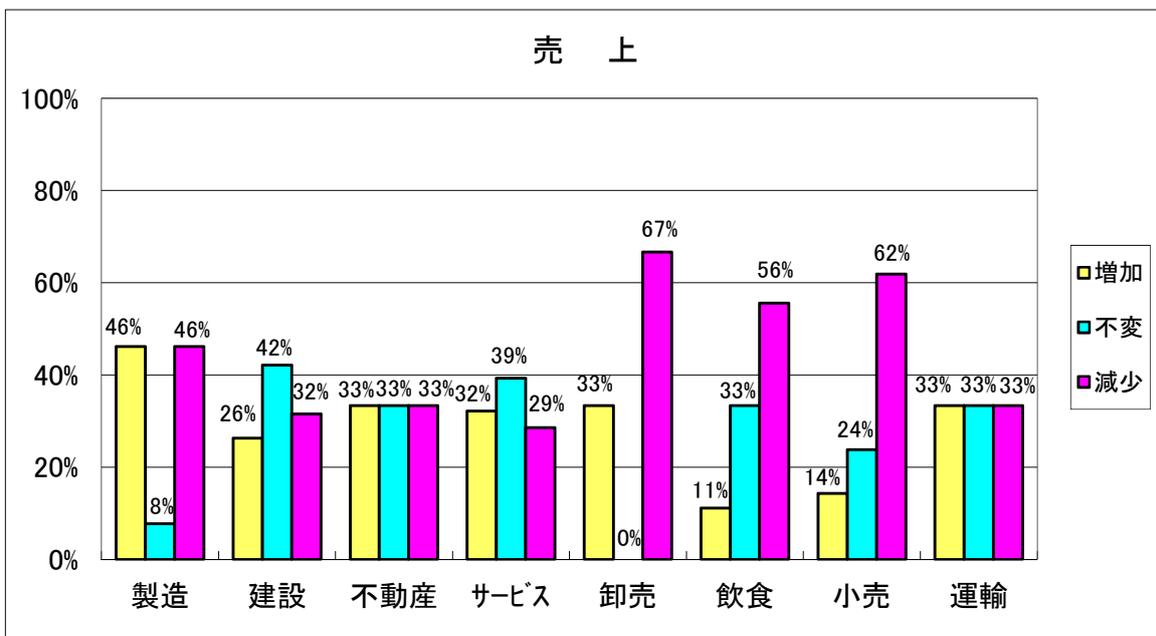


調査1 平成28年1月～6月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と平成28年下期の見通しについて比較表示してある。

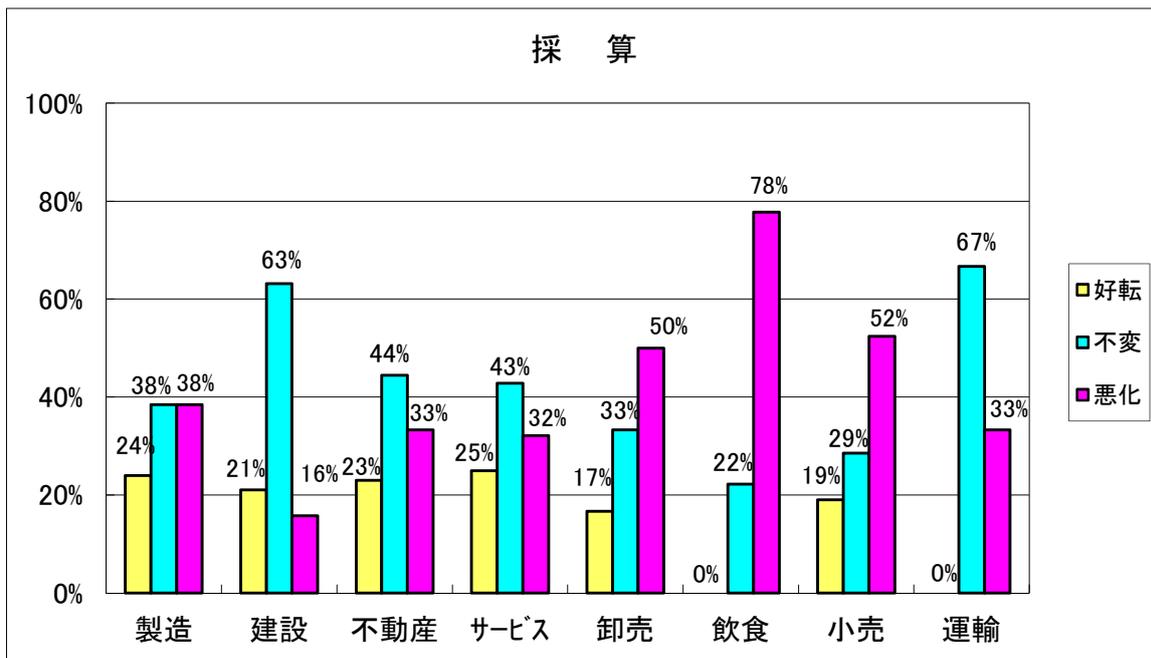
①売上について

全体的で見ると昨年より「増加」が28%（前回調査34%）、「不変」が30%（前回調査38%）、「減少」は42%（前回調査38%）とかなり低迷をしている。その中で、売上「減少」が顕著なのが卸売業（67%、前回調査11%）、小売業（62%、前回調査60%）、飲食業（56%、前回調査33%）であった。



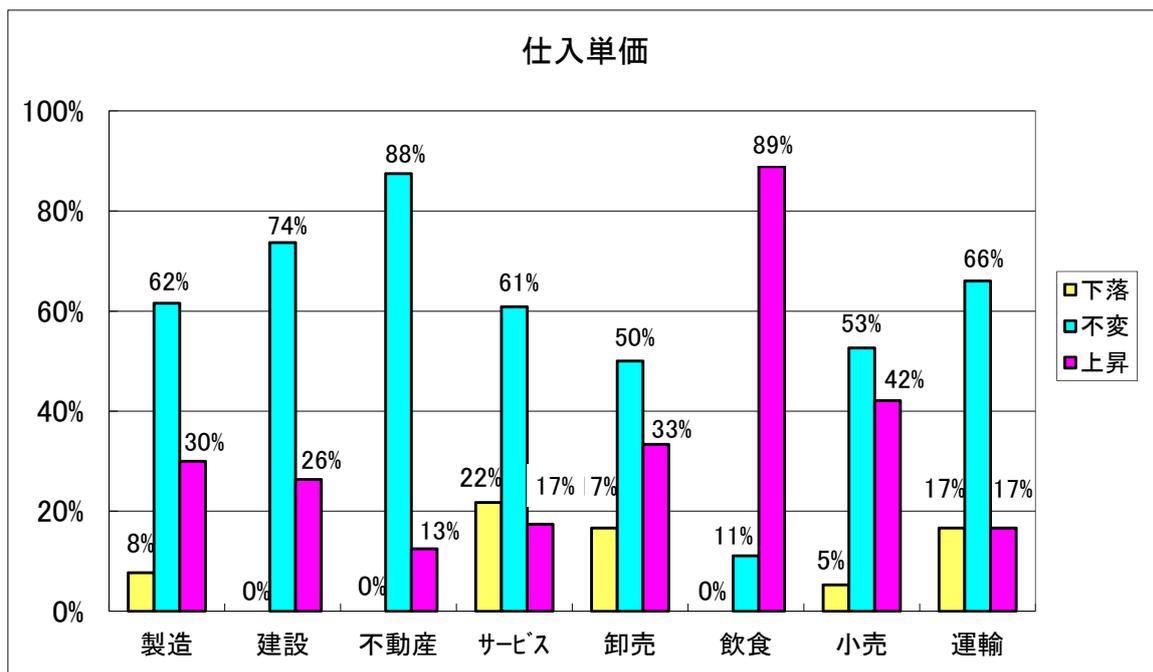
②採算について

全体で見ると、「好転」19%（前回20%）、「不変」42%（前回47%）、「悪化」39%（前回33%）であった。業種では飲食業（78%）、小売業（52%）が特に「悪化」しており厳しい状況である。仕入原価の上昇が主な要因とみられる。



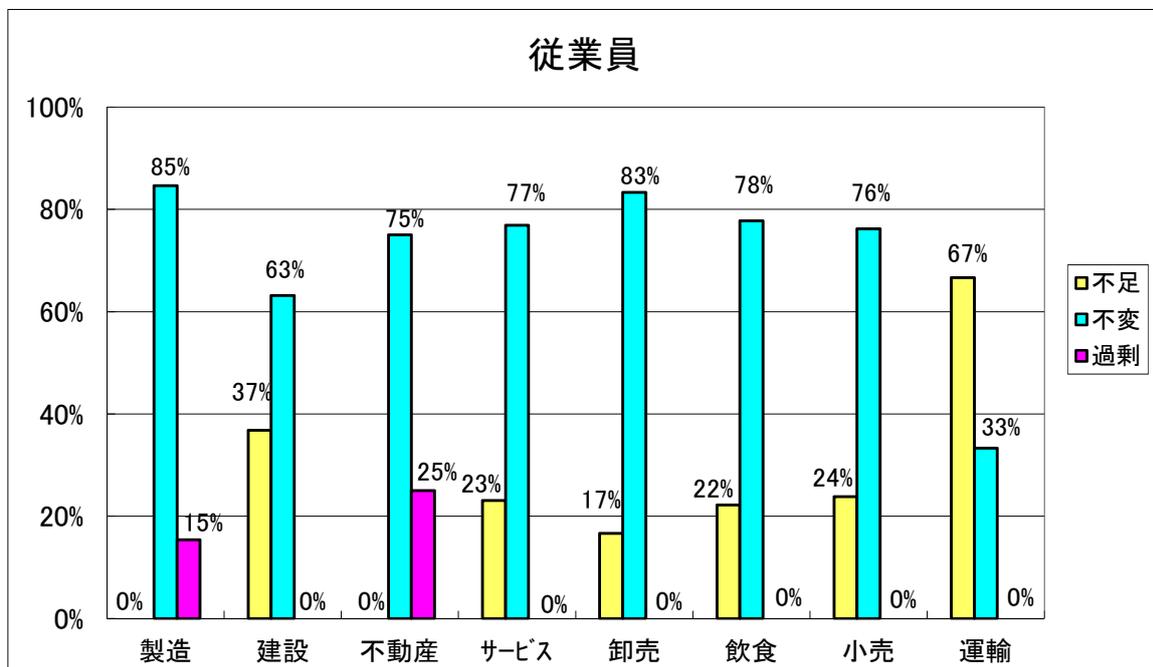
③仕入単価について

仕入単価が「上昇」したと回答が多かったのが、飲食業(89%)で他の業種に比べても突出しており、非常に厳しい状況がうかがえる。

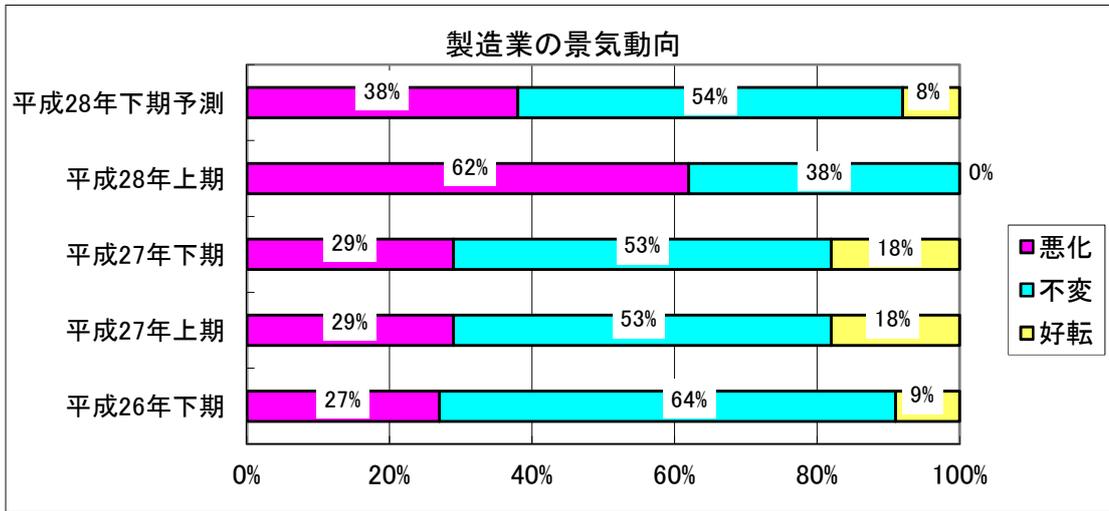


④従業員について

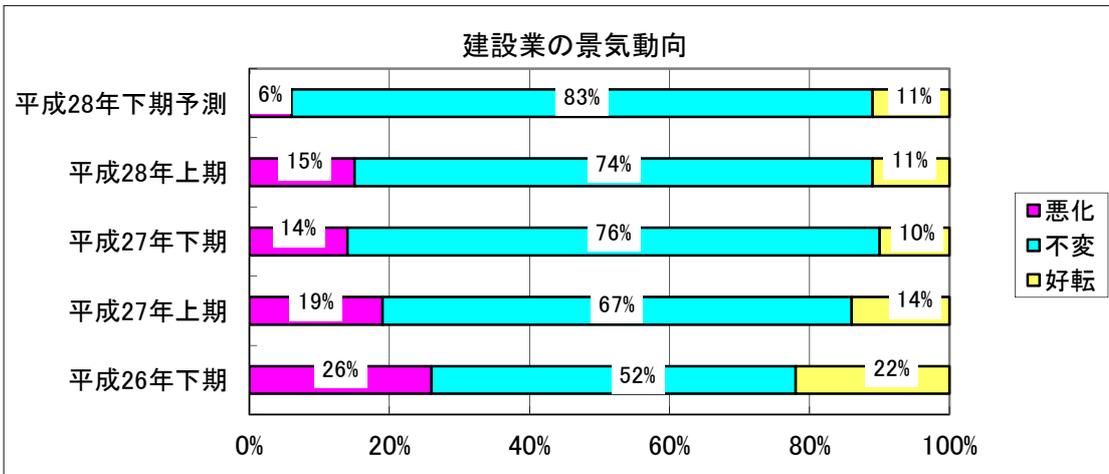
「不足」が顕著なのが、前回同様で運輸業(67%、前回調査50%) 建築業(37%、前回調査45%)で人手不足が深刻な状況である。



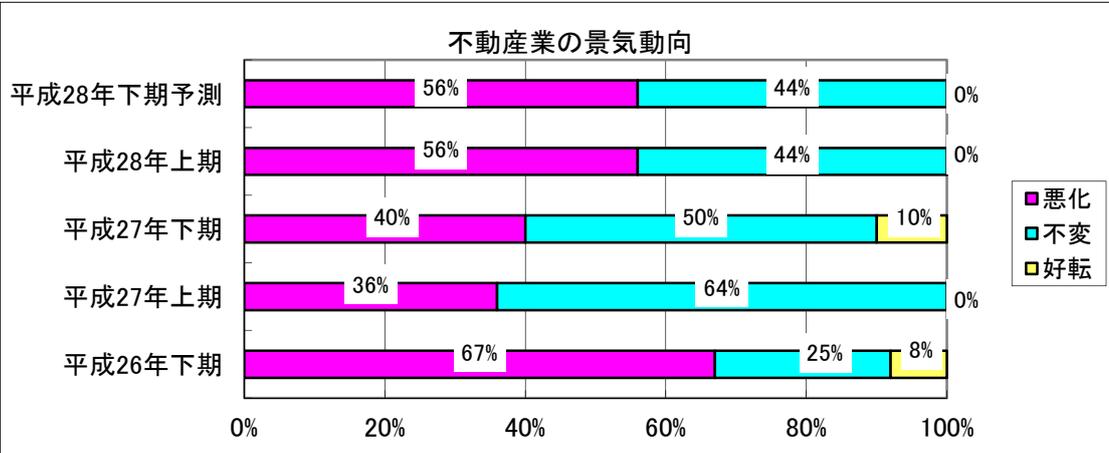
⑤業界の景気動向について



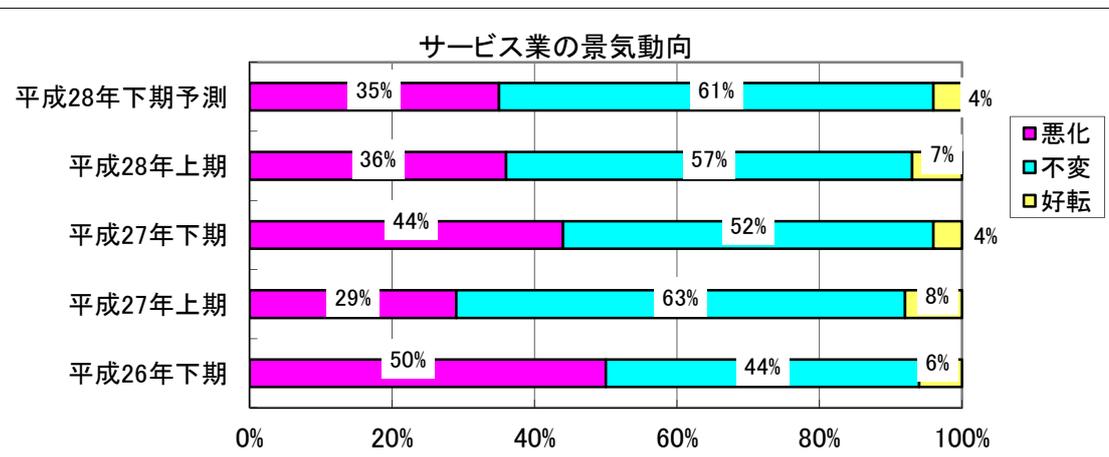
■製造業
平成28年上期では、「好転」が0%で「悪化」が62%と景気は悪化傾向にあった。平成28年下期の見通しは「好転」が8%とあるものの、為替の変動で依然として先行き不透明な見通しである。



■建設業
平成28年上期は、「不変」が74%、「悪化」が15%と前年より大きな動向はみられない。平成28下期の見通しは「悪化」が6%と減少しているものの大きな変動はない。



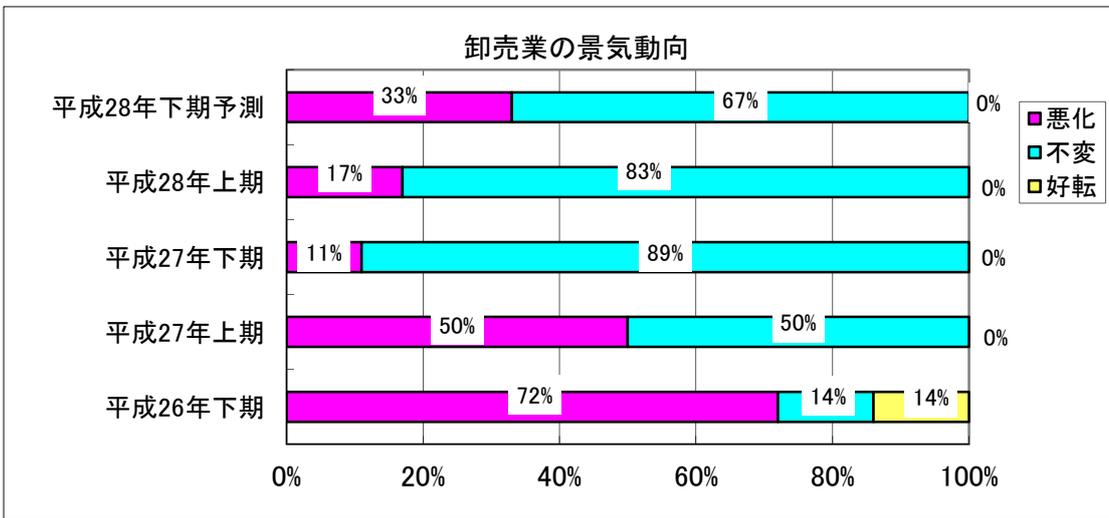
■不動産業
平成28年上期は、「好転」が0%となっていて、「悪化」が56%へと増加し全体的に停滞している。平成28年下期の見通しも「悪化」が56%と見通しは厳しい。



■サービス業
平成28年上期では前回よりも「悪化」が36%と減少し、「好転」も7%と若干増加している。平成28年下期の予測は景気の「不変」との回答が多く、現状と見通しは変わらない。

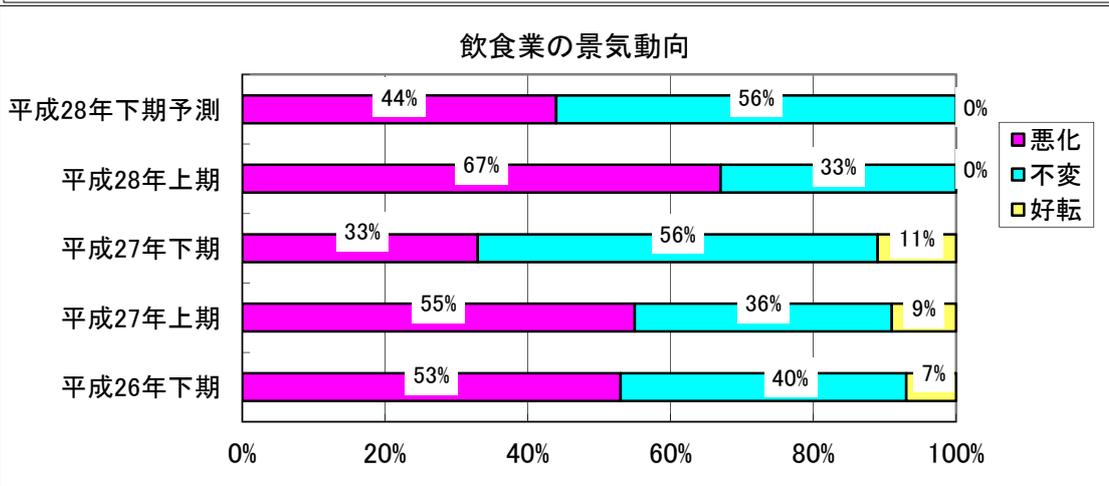
■卸売業

平成28年上期は「好転」がなく「不変」が83%、「悪化」が17%であった。平成28年下期予測では、「悪化」が33%と増加しており景況は厳しい予測であった。



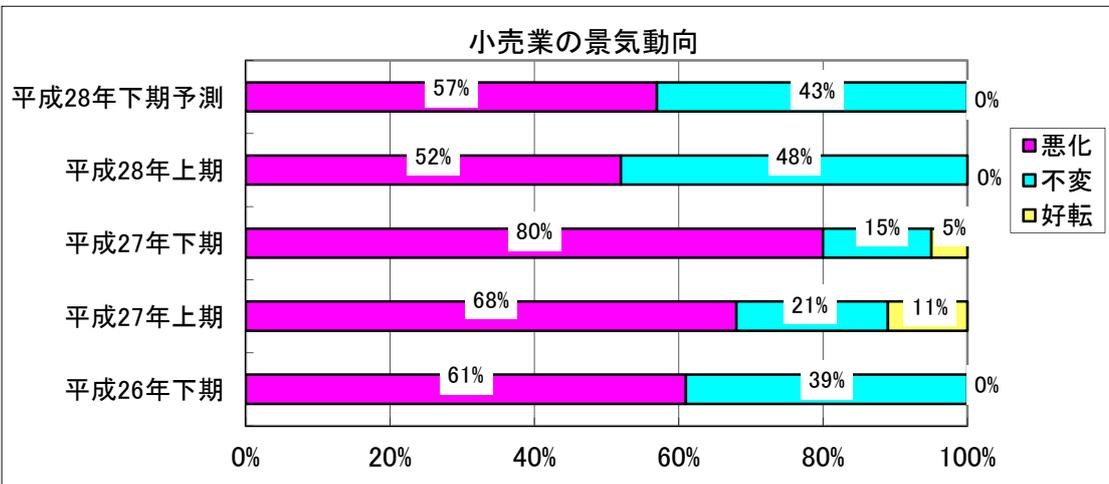
■飲食業

平成28年上期では「悪化」が67%と前回調査よりも大きく増加している。平成28年下期予測も「好転」の見込みがなく厳しい予測となっている。



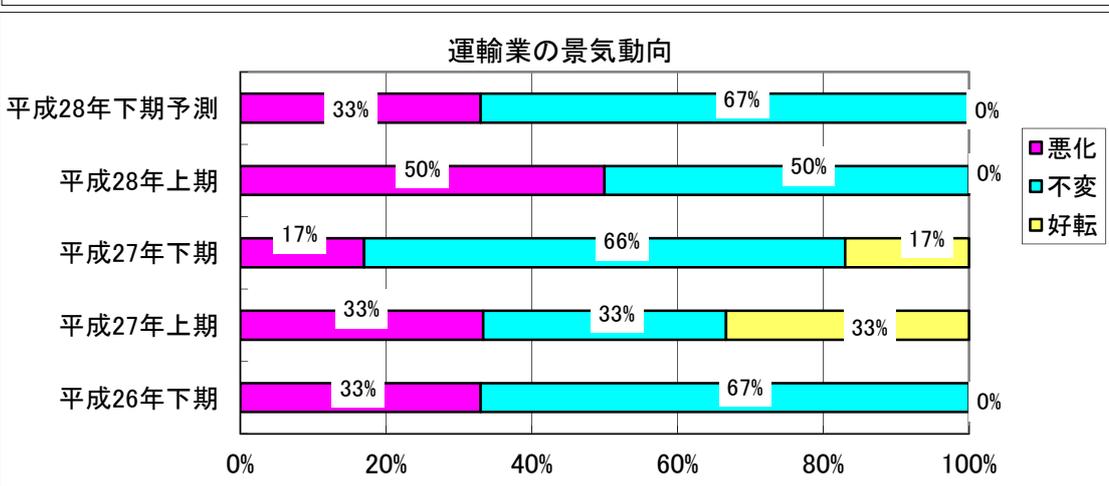
■小売業

平成28年上期は、「好転」が0%、「不変」が48%、「悪化」は52%とかなりの景気は依然として低迷している。平成28年下期の見通しも厳しいものとなっている。



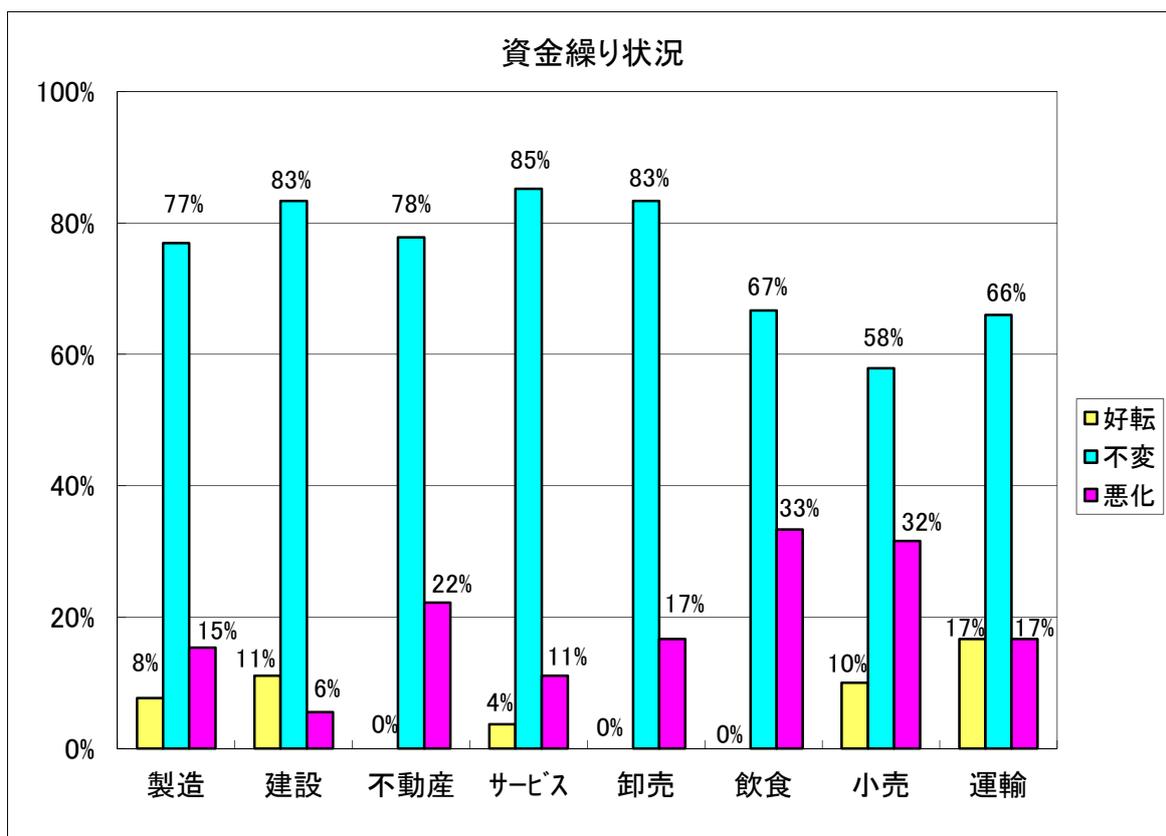
■運輸業

平成28年上期は、「悪化」が50%と前回調査に比べ悪化している。平成28年下期の見通しでも、「悪化」は33%と減少しているものの厳しい状況が予測されている。



⑥資金繰りについて

全体で見ると「不変」が75%（前回75%）、「悪化」が18%（前回15%）、「好転」が7%（前回10%）と回答している。前回調査とあまり変わらないが、業種で見ると「悪化」が多いのが飲食業、小売業であった。



⑦金融機関の融資状況について

全体的にみると「不変」が44%（前回48%）、「融資無し」が31%（前回22%）、「厳しい」が8%（前回9%）、「緩やか」が17%（前回21%）であった。融資状況については概ね変わりはなかった。

